不易と流行

１月 25 日（水）から 26 日（木）にかけて、大きな寒波が訪れ学校のグラウンドにも積雪が見られました。

しかし、26 日の朝には生徒たちは寒さにもめげず、雪の玉をつくったり、学級通信の感想欄には「雪が降って楽しい」などのコメントを寄せたりするなど、「いつもどおり」元気に登校していました。いつの時代も変わらない子どもの姿を見ると「不易と流行」という言葉が思い浮かびました。

令和５年６月 16 日、国における教育の方針として、第４次教育振興基本計画が策定され、そこには、教育基本法を普遍的な使命としつつ、新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基調とすると記されています。

教育における「不易」とは、社会でたくましく生きるための知識と教養を身に付けさせること、豊かな人間性を育むこと、健やかな身体を養うこと、つまり「知・徳・体」の力をバランスよくつけさせることだと考えています。本校の目指す生徒像に掲げられた①挑戦する生徒②仲間を大切にする生徒③自ら考え、実行する生徒がまさにそれにあたります。

一方、社会は人工知能(AI)、 ビッグデータ、IoT 等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代となりつつあり、加えてグローバル化の発展により、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきています。これがいわゆる「流行」にあたります。このような社会の中で生きていく子どもたちを育てて行くには「不易」だけでなく「流行」に柔軟に対応していくことも教育に課せられた課題です。

本校では「流行」への対応として、「生涯にわたり学び続ける生徒の育成～他者と協働して課題解決に挑む～」をテーマに話し合い活動を授業に積極的に取り入れ、お互いの意見を交流する場面を増やし、学びが深められる授業実践を目指しております。例えば、１人１台端末等を活用し「今まで挙手して発表までは。」と思っていた生徒が、挙手をするのではなく、自分の考えを打ち込んだタブレットの画面をモニターに映し出したりすることで、より多くの生徒が意見を表明しやすくし、話し合いを深める工夫などを行っております。

今後も生徒が話し合いを通じて学びが深められるように、話し合いの方法の工夫や話し合う課題の質の向上を図るために授業の研究を進めてまいります。そして、西ノ岡中学校教職員一同で「不易」と「流行」を見極めつつ、これらをしっかり位置付けた本校ならではの生徒１人１人を大切にした学びを推進できるよう教育活動を進めてまいります。

校長　岡本 英明

学校だより（２月号）より